

# COVID-19 感染拡大に伴い実施した 公衆衛生看護学代替的実習プログラムの評価

合 田 加代子・聲 高 英 代

## Evaluation of an Alternative Public Health Nursing Training Program Implemented during the COVID-19 Pandemic

GOUDA Kayoko and KOETAKA Hanayo

### Abstract :

**Objective :** To clarify the effectiveness and challenges of an alternative public health nursing training program implemented during the COVID-19 pandemic based on student evaluation.

**Methods :** Opinions about the alternative training program were collected from 34 fourth-year students taking the Public Health Nursing Education course at a university, using the anonymization function of the learning support system Moodle from July to August 2020.

**Results :** The students' opinions confirmed the effectiveness of the alternative training program as a <practical learning method that helps visualize the activities of public health nurses> and <training method that creates realistic feelings>, characterized by <faculty members' educational considerations> and <coordination to establish a safe and reliable training environment>. On the other hand, various challenges, including [limits to the achievement of realistic experiences], represented by [difficulty in interpreting residents' responses] and [insufficient opportunities to directly learn about the activities of public health nurses], and [learning difficulties] due to [the occurrence of students' health problems] and [communication failures], were identified.

**Conclusion :** The effectiveness of the alternative training program was confirmed. Future studies should further pursue how to engender realistic feelings, and develop the program to help students more easily understand the activities of public health nurses. At the same time, the results indicate the necessity of discussing how to realize clinical training at public health centers even for a short period. They also suggest the usefulness of applying the educational approaches and methods that were shown to be effective to deepen student learning, rather than limiting them to emergencies.

**Key Words :** public health nursing, public health nurses, alternative training, COVID-19, evaluation

### 抄録 :

**目的 :** COVID-19 感染拡大に伴い実施した公衆衛生看護学代替的実習プログラムの有効性と課題について、学生評価を用いて明らかにすることを目的とする。

**方法 :** A 大学保健師教育課程の4年生34名を対象に、2020年7月～8月に、代替的実習プログラムに対する意見を学習支援システム Moodle の匿名設定機能を用いて調査した。

**結果 :** 代替的実習プログラムは、保健師の活動をイメージできるリアルな教材、臨場感のある実習方法、教員の教育的配慮、安心安全な実習環境の調整等のプログラムの有効性を確認できた。課題は、

住民の反応を実感できないことや保健師の活動を直接学べないといった、リアル体験の限界と健康問題の出現及び通信環境のトラブルによる学習困難等であった。

**結論：**代替的実習プログラムの有効性を確認できた。今後は、より臨場感を追求し保健師活動を理解できるプログラムに発展させていくと同時に、短期間であっても保健所等での臨地実習の実現について検討する必要性が明らかになった。また、学生の学びを深めることに有効であった教育内容や方法については緊急事態に限定せずに応用することの有用性が示唆された。

**キーワード：**公衆衛生看護学、保健師、代替的実習、COVID-19、評価

## I. 緒 言

わが国の保健師は、保健師助産師看護師法総則第二条において、「厚生労働大臣の免許を受けて、保健師の名称を用いて、保健指導に従事することを業とする者」と定められた国家資格である。保健師の教育については、同法により保健師養成の修業年限は1年以上と規程されており、保健師教育課程の履修単位数は、保健師助産師看護師学校等養成所指定規則にて28単位（その内5単位は臨地実習：公衆衛生看護学実習）と定められている。この公衆衛生看護学実習は、保健師の活動現場で行われる実践的な教育であり、保健師学生は地域住民に接し、住民や多職種と協働することで多くのことを学び、保健師活動に必要な実践能力を養うための有効な学習機会となっている。

しかしながら、2020年度の臨地実習については、COVID-19の感染拡大に伴い、感染症対策の最前線での機能を果たす保健所や自治体の保健センター等行政機関の実習施設における実習生の受け入れが困難な状況になった。国は、この状況を鑑み、都道府県教育委員会、国公立私立大学等関係機関等に「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設等の対応について（令和2年2月28日付）」の通知を出し、医療関係職種等の学校養成所在生等が修学等に不利益が生じないように適切に対応することの周知がなされた。

なお、学校養成所等の運営に係る取扱いにあつては、COVID-19の影響により実習施設の受け入れ中止等により、実習施設等の代替が困難である場合、実状を踏まえ実習に代えて演習又

は学内実習等を実施することにより、必要な知識及び技能を修得することとして差し支えないこと、また、国家試験の受験資格に係る取扱いとして、COVID-19の対応により実習中止、休講等が生じ、授業の実施期間が例年に比べて短縮された場合であっても、当該学校養成所等において必要な単位もしくは時間を履修して卒業した者については、各医療関係職種等の国家試験の受験資格が認められることが明記された。ただし、その取扱いは、学校・養成所等における教育内容の縮減を認めるものではないことから、時間割の変更、補講授業、インターネット等を活用した学修、レポート課題の実施等により必要な教育が行われるよう、特段の配慮を行うこととされた<sup>1)</sup>。

A大学では保健師教育課程履修者を対象とした実習のうち、保健所や市町保健センター等の行政における公衆衛生看護学実習Ⅰ（3単位）は、5月～7月に配置されているが、2020年度の実習は実習契約施設から受け入れ困難との連絡が入ったこと、さらに国がCOVID-19対応の特別措置法に基づく緊急事態宣言を2020年4月7日に発出したことを受け、A大学においても、学生と教職員の生命を守り、適切な大学運営を行い、社会的責任を果たすために登学を禁止し、前期セメスターはすべてオンライン授業にすることが決定された。なお、実習時期を後期に移動することは、カリキュラム構成上困難であるため代替の実習を実施することになった。

保健師に求められる実践能力は、地域に潜在している問題を顕在化させ対応する役割、健康危機へ迅速に対応し地域力の向上や平時より広域的な健康危機管理体制を整える役割、新たな社会資源の開発やシステム化・施策化を進める

役割と機能を踏まえて、①地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力、②地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力、③地域の健康危機管理能力、④地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力、⑤専門的自律と継続的な質の向上能力が設定されている<sup>2)</sup>。

なお、文部科学省高等教育局医学教育課（令和2年6月23日付）より周知された「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う看護師等養成所における臨地実習の取扱い等について」において、実習計画を見直した場合も、ガイドラインに示している「求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度」に照らし、学生の学修状況についての評価を実施することと明記されている<sup>3)</sup>。

保健師が行う公衆衛生看護活動は、対象が必ずしも個人ではなく集団や地域の場合が多いことや個別ケアから集団・地域ケアへと健康課題を結びつけ支援するという特徴がある。これらの実践能力を学内の教育でイメージさせ、修得化を目指す教育方法には、討議に基づく実践的な経験教育の方法であるケースメソッド教授法を用いて公衆衛生看護技術演習の効果を明らかにした事例<sup>4)</sup>、学生が楽しみながら能動的に学べる講義あるいはゲーミング・シミュレーションを取り入れた健康危機管理演習例<sup>5)</sup>など従来から様々な演習事例が報告されている。しかしながら、今回の著者らの「同時双方向型遠隔システム主体の行政実習」は初めての試みである。

なお、2020年後半からはCOVID-19禍における看護学実習について、老年看護学実習プログラムの検討結果<sup>6)</sup>や在宅看護学実習における

対話型オンライン実習の内容検討と評価<sup>7)</sup>、遠隔授業での基礎看護学実習の実践報告<sup>8)</sup>、基礎看護学実習のための看護教育方法の提案<sup>9)</sup>や、公衆衛生看護学実習においては、学内実習日を比較的多く設定し、学校保健実習や産業保健実習を組み入れた代替的実習<sup>10)</sup>が報告され始めてきている。しかし、いずれにしても同時双方向型遠隔システム主体の行政における公衆衛生看護学実習の報告は見当たらない。

そこで、本研究はCOVID-19感染拡大に伴い、A大学の行政機関における実習の代替として実施した同時双方向型遠隔システム主体の「公衆衛生看護学代替的実習プログラム」の有効性と課題について、学生評価を用いて明らかにすることを目的とする。

## Ⅱ. 研究方法

### 1. 用語の定義

公衆衛生看護学代替的実習：同時双方向型遠隔システム（Zoom）と学内実習を用いたハイブリッド形式の実習とする。

2. 公衆衛生看護学代替的実習プログラム（以下、代替的実習プログラムとする）：A大学の公衆衛生看護学実習5単位のうち、行政機関における実習プログラム（3単位、120時間）は、A大学の実習目的・実習目標（表1）及び「保健師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」<sup>2)</sup>、「保健師教育におけるミニマム・リクワイアメンツ」<sup>11)</sup>を参考に検討を重ね作成した（表2）。なお、代替的実習プログラムは、保健師の実践能力育成を目指し、個別・集団・地域のオリジナル事例の作成やシミュレーション、グループワーク、個人ワーク等を組み入れて構

表1 A大学の公衆衛生看護学実習の目的・目標

#### 1. 実習目的

地域特性を踏まえ、地域で生活する個人・家族・集団・地域を対象に、保健医療福祉の一員として、住民と協働して行う公衆衛生看護活動の展開に必要な保健師の実践能力を養う。

#### 2. 実習目標

- ①地域特性を踏まえ、地域の実情に即した公衆衛生看護活動の展開が理解できる。
- ②地域で生活する個人・家族を対象とした公衆衛生看護活動を理解し実践できる。
- ③集団を対象とした公衆衛生看護活動を理解し実践できる。
- ④地域の健康問題解決に必要な支援、社会資源の活用・施策化のプロセスについて説明できる。
- ⑤保健所および保健センターの機能および保健医療福祉のヘルスケアシステムを理解し、保健師が果たす機能・役割について理解できる。

表2 公衆衛生看護学実習Ⅰ代替の実習プログラム

日付	内 容 (午前)	方 法	内 容 (午後)	方 法	実習目標
1 週目 (月)	オリエンテーション	オンライン	家庭訪問	オンライン	
	行政機関 (A 市想定) オリエンテーション 健康教育オリエンテーション	A 市資料	母子保健事業の説明 訪問対象者紹介／訪問予約場面 (DVD) 訪問計画の立案	スライド DVD*1 個人ワーク	②③⑤
(火)	家庭訪問	オンライン	家庭訪問／健康教育	オンライン	
	家庭訪問の実際 (DVD) 訪問過程における地区視診 (地域環境の考察) 訪問場面から保健師の保健指導を考察	スライド DVD*1	訪問記録作成 健康教育企画書作成	個人ワーク	②③
(水)	集団健診 (4 カ月健診)	オンライン	集団健診／健康教育	オンライン	
	4 カ月児健診の体験 (シミュレーション)	スライド・実演	カンファレンス (4 か月児健診), 記録作成 健康教育企画書作成	グループワーク 個人ワーク	③
(木)	集団健診 (1 歳 6 カ月健診)	オンライン	集団健診／健康相談／健康教育	オンライン	
	1 歳 6 カ月児健診の体験 (シミュレーション)	スライド・実演 DVD*2	カンファレンス (1 歳 6 カ月児健診), 記録作成 問診場面のロールプレイ準備, 健康教育企画	グループワーク 個人ワーク	②③
(金)	健康相談 (乳幼児健診)	オンライン	健康相談／健康教育／地域診断	オンライン	
	乳幼児健診問診実施 (ロールプレイ) カンファレンス (ロールプレイの学び G 共有)	スライド・実演 DVD*3	健康相談のまとめ, 健康教育媒体作成 地域診断マッピング	グループワーク 個人ワーク	①-③
2 週目 (月)	結核対策／保健指導	オンライン	地域診断／健康教育	オンライン	
	結核対策の説明 結核患者保健指導 (シミュレーション)	スライド・実演	地域診断マッピング 健康教育媒体作成	全体 個人ワーク	①-③
(火)	結核保健指導 (接触者健診／コホート検討会)	オンライン	健康危機管理／地域診断	オンライン	
	結核接触者健診 (シミュレーション) コホート検討会	スライド・実演	災害時の保健師活動の説明 難病患者の災害対応 (事例説明)	スライド	②③⑤
(水)	難病対策／保健指導	オンライン	地域診断／健康教育	オンライン	
	難病対策の説明 難病患者への保健指導 (事例)	スライド	地域診断マッピング 健康教育媒体作成	全体 個人ワーク	①-③
(木)	施策化のプロセス	オンライン	施策化のプロセス	オンライン	
	個別支援から施策化へのプロセス (難病事例) カンファレンス (患者会支援／地域システム)	スライド	施策化プロセスの図式化 自己学習 (地域診断マッピング, 健康教育等)	全体 個人ワーク	①-④
(金)	家庭訪問	学内	家庭訪問グループのまとめ／ロールプレイ準備	オンライン	
	新生児訪問の実際 (発育発達の観察・計測演習)	演習 グループワーク	グループの学び, 記録作成 家庭訪問ロールプレイ準備	グループワーク 個人ワーク	②⑤
3 週目 (月)	家庭訪問	学内	家庭訪問	オンライン	
	家庭訪問のロールプレイ	演習 グループワーク	グループカンファレンス／全体カンファレンス	グループワーク 個人ワーク	②⑤
(火)	地域ケアシステム	オンライン	健康教育	オンライン	
	施策化プロセス図式化と学びを G 共有 カンファレンス (施策化における保健師の役割)	スライド グループワーク	健康教育の発表 (G 内) 全体発表者選出／意見交換	グループワーク 個人ワーク	①④
(水)	地域診断	学内	実習の学び総括	オンライン	
	地域診断マッピングの発表 (G 内), 意見交換	グループワーク	報告資料作成 (グループ)	グループワーク	①⑤
(木)	健康教育	オンライン	健康教育／グループのまとめ	オンライン	
	健康教育発表 (代表者) 健康教育評価	グループワーク	健康教育評価 報告会資料作成 (GW)	グループワーク 個人ワーク	①⑤
(金)	実習報告会	オンライン	実習学びのまとめ	オンライン	
	実習施設別に実習の学びを発表 学びの意見交換	全体	実習の学びのまとめ, 実習自己評価 実習記録作成	グループワーク 個人ワーク	①-⑤

\*1 監修：佐々木明子他, 「地域看護活動とヘルスプロモーション2 家庭訪問の展開とコミュニケーション技術」2007. 丸善出版 (映像), 2007, (地域看護活動とヘルスプロモーションシリーズ)

\*2 監修：社会福祉法人恩賜財団母子愛育会, 日本子ども家庭総合研究所, 「乳幼児健診の手引き第一巻」1997. 株式会社新宿スタジオ, 1997, (乳幼児健診の手引きシリーズ)

\*3 監修：佐々木明子他, 「地域看護活動とヘルスプロモーション1 地域看護学概論」2007. 丸善出版 (映像), 2007, (地域看護活動とヘルスプロモーションシリーズ)

シミュレーション, 模擬事例のスライドは教員が作成

成している。具体的には、実習目標1の地域診断能力は、実習地域の地域診断、地域資源マップの作成と発表、地域の健康課題抽出、実習目標2の個人・家族支援能力は、新生児訪問のDVD視聴と訪問計画の立案演習、学内実習での訪問技術演習（デモストレーション、ロールプレイ）、乳幼児健康相談（シミュレーション、カンファレンス）、結核保健指導、コホート検討会（シミュレーション、カンファレンス）、実習目標3の集団支援能力は、4か月児健診・1歳6か月児健診（シミュレーション、カンファレンス）、地域診断に基づく健康教育の企画・指導案作成・媒体作成・実施、実習目標4の施策化能力は、難病事例を用いた施策プロセスの図式化、実習目標5のヘルスケアシステム、健康危機管理能力は、災害時保健師活動事例演習、実習報告会を意図的に組み入れている。なお、地域診断実習及び対象者との相互作用の中で安全かつ正確な技術修得が必要な家庭訪問実習は対面実習が効果的と考え、十分な感染予防対策を講じた上で学内実習とした。

実習期間は、6月の3週間で、その内の3日間（各半日）は学内実習とした。教員は3名であった。

### 3. 研究デザイン

代替的実習プログラムへの学生評価を用いた質的記述的研究とする。

#### (1) 調査対象

A 大学保健師教育課程の4年生 34名

#### (2) 調査時期

2020年7月～8月

#### (3) 調査内容

代替的実習プログラムに対する意見（①良かったこと・学べたこと、②限界・課題）

#### (4) 調査方法

オープンソースの学習支援システム Moodle の匿名設定機能を用いての提出を依頼した。学生への説明と依頼は、実習最終日に行った。

#### (5) 分析方法

代替的実習プログラムの良かった点・学べた点及び課題を説明しているコードを抽出し、類似するコードをサブカテゴリとし、さらに抽象度を高めカテゴリ化した。データの解釈やカテゴリ名の妥当性を研究者間で検討した。

### 4. 倫理的配慮

対象者には、研究の目的、方法、本研究への参加と同意撤回の自由、倫理的配慮等を明記した研究説明を口頭と文書にて行い、研究同意書にて同意を得た。なお、研究に参加しない場合、あるいは中断した場合でも成績や学習支援等の不利益が生じることは一切ないこと、分析は、本科目の成績評価が終了後に行うことを説明して実施した。また、無記名式の調査であるため、提出後の同意撤回はできないことについても説明した。本研究は、甲南女子大学倫理審査委員会の承認を得て実施している（承認番号 2020016）。

## Ⅲ. 研究結果

### 1. 代替的実習プログラムの有効性

回答者数は33名（回収率97.1%）であった。記述から抽出したコード数は66で、21のサブカテゴリに分類され、さらに8つのカテゴリが生成された（表3）。カテゴリを【】、サブカテゴリを〈〉、コードを「」で示す。

学生は、代替的実習のよさ・学びとして、「実例をもとに進めたので保健師活動をリアルに感じられた」など【多様な事例の提示による保健師活動のイメージ化】ができ、さらに、「事例の説明が具体的だったので保健師の思考過程が学べた」「乳健（乳児健康診査）のフォロー事例などオンラインだからこそ様々な事例に触れ支援方法を考えられた」「オンラインだから難病や感染症など体験できにくい事例のことを学べた」など【具体的事例による保健師の思考過程と支援技術の修得】につながると捉えていた。また、教員の実体験の説明や学生自身も動画事例の訪問計画やロールプレイ、地域診断の一環であるマップ作成など〈リアルな模擬体験で達成感が得られた〉など【教員の実演と学生の模擬体験による臨場感ある学び】につながっていた。また、〈他の学生の意見や発表を聞くことで学びが深まった〉「グループワークの時間があつたので学びが深まった」など Zoom のブレイクアウトルームを活かすことで【グループワークとカンファレンスによる気づきの促進と学びの深化】をもたらししていた。一方、〈個人ワークの時間が考えを深め効率的な

表3 代替的実習プログラムの有効性

コード	サブカテゴリ	カテゴリ
保健師の実例があり大切なことや役割を考えやすかった 実際の活動事例をもとに進めたので保健活動をリアルに感じられた	実例の提示で保健師活動がリアルに感じられた	多様な事例による保健師活動のイメージ化
事例が沢山あったので具体的に対象者をイメージすることができた 複数の健診や家庭訪問などの事例を挙げてもらえイメージしやすかった	多様な事例で対象をイメージできた	
具体的事例だったので、想像しやすく学びにつなげることができた 家族に対する保健師の具体的な支援が学べてより興味を持てた 事例を用いて一つのことを深めながらできたのは良かった 事例の説明が具体的だったので保健師の思考過程を学べた 事例に対する保健師の思考など実習では聞きづらいことが聞けた	具体的事例で保健師の思考過程を学べた	具体的事例による保健師の思考過程と支援技術の修得
様々な幅広い分野の事例を通して保健師の役割を考えられた 分かりやすい事例を通して沢山学べたので保健師の役割が学べた	幅広い事例で保健師の役割を学べた	
多くの事例を聞くことで、保健師の支援方法を想像できた 乳健のフォロー事例などオンライン実習だからこそ様々な事例に触れ、支援方法や関わり方を考えられた	多様な事例で保健師の支援方法を考えられた	
難病患者の継続訪問から事業化のプロセスを知ることができた オンラインだから難病や感染症など体験できにくいことを詳しく知れた DOTS の実際など実習では体験できないような内容を勉強できた	体験できないような事例を詳しく学べた	
先生の実演やビデオを見て対象者の状況や課題を知ることができた 先生の实演を交えて実習が進められたので、実践的な部分を学べた 先生のロールプレイがあり保健師の関わり方が参考になった	臨場感ある実演を見て保健師の支援方法を学べた	教員の实演と学生の模擬体験による臨場感ある学び
実際の話も交えながら保健師の関わり方を学べイメージしやすかった 先生の体験を織り交ぜてもらったので実際に近い様子を感じ取れた 教員の保健師として活動していた時の話が参考になった	教員の実体験の話が現実を感じ取れた	
zoom でもロールプレイの時間があつたので学びが深まった 実際に自分が訪問に行くとして計画や手順を考えることができた 自分でマッピングができて達成感があつた	リアルな模擬体験で達成感が得られた	
他の学生の健康教育やマッピングを見て自分に足りないことを学べた 他の学生の健康教育をみる機会もあり他のアイデアを吸収できた 実習グループメンバー以外の学生の意見も聞けて学びが深まった	他の学生の意見や発表を聞くことで学びが深まった	
全員共通の事例をグループワークしたので意見交換が活発にできた 同じ事例を全員で共有し考えるので気づきが増え学びが深まった 実習場所による体験の違いがなく共通した学びが得られた	共通事例を学ぶことで多様な気づきや学びが得られた	グループワークとカンファレンスによる気づきの促進と学びの深化
臨地実習よりも他の学生の発表や意見をたくさん聞けた 保健師活動別にカンファレンスのできだったので学びを共有できた クラス全員のカンファレンスが多く学びの共有がたくさんできた 先生や他の人の意見を聞く機会が多く学びが深まった	カンファレンスで学びを共有できた	
グループワークの時間があつたので学びが深まった メンバーと事例検討することで保健師の役割の理解が深まった	グループワークが学びを深めた	
記録に追われず自分の考えをまとめる時間が十分に取れた 個人ワークの時間があつたので記録を効率的に進めることができた 自己学習の時間があつた、自分のペースでできた 個人ワークがあつたのでずっと PC を見なくてよかった	個人ワークの時間が考えを深め効率的な学習になった	個人ワークの設定が思考と学びの深化、満足感の獲得
実際の保健師活動を見れなかったが、意外と学びが深まった もしかすると、オンラインの方が学びは深まるんじゃないかとまで思った オンライン実習だったが意外と学べたと感じ、満足感と達成感がある オンラインだからこそ、支援や事業について時間をかけて考えられた オンラインだからこそ多くの個別の事例について考えることができた 現地の実習より、しっかりメモをとることができ事例の振り返りができた	考える時間が多く学びの深まりや満足感が得られた	
実習内容が項目立てられており、今日することがわかりやすかった 実習の進み方や1日の課題の量も実際の実習と変わらなかった オンラインでも実習に行つて保健師が登場しているみたいだった	臨地実習同様のプログラムが立案されていた	実習さながらのプログラムと運営で臨場感ある実習体験
先生が指名しながら進行してくれたので意見交換でき効果的だった 先生方のたくさん工夫やスムーズな進行でたくさん学ぶことを学べた	実習運営がスムーズだった	
毎回先生方から総括のコメントをもらえた 先生方が総括してコメントを言うてくださることがすごくよかった 毎日午前午後の出席確認してもらえたので安心できた 日々の課題や提出物を丁寧に説明してもらえたので安心できた	日々のコメントと説明が安心感をもたらした	教員の速やかで丁寧な対応がもたらす安心感
教員が3人体制だったので相談もしやすかった 慣れない状況で難しいことがあるたびに対応してもらえ安心できた 先生が絶対に否定しないし、見捨てないでくれた 先生方の優しさに、みんな救われたと思う	教員の速やかで丁寧な対応が慣れない実習に安心感をもたらした	
感染予防や自身の体調管理という意味で良かった 外出自粛の生活を行うことができた	外出自粛生活により体調管理ができた	外出自粛による安心安全な実習の実現
毎日施設に通わなかったことで睡眠時間が取れて体が楽だった 実習先への移動がなく疲労が少なかった 移動時間がない分、事前学習ができ内容が入ってきやすかった 施設に行くという緊張感や実習によるストレスが緩和された	移動時間が不要で安心安全と学習時間を作れた	

学習になった」と捉え、【個人ワークが思考と学びの深化と満足感の獲得】につながっていた。そして、臨地実習に見立てたタイムスケジュールや教員が保健師になり切っていたことなどから【実習さながらのプログラムと運営で臨場感ある実習体験】を得ることができていた。また、自宅から参加する学生にとっては、教員の〈日々のコメントが安心感をもちたす〉とともに、「先生が絶対に否定しないし見捨てないでいてくれた」など【教員の速やかで丁寧な対応がもたらす安心感】を挙げていた。そして、COVID-19 禍であったことから「感染予防や体調管理ができて良かった」「移動時間がない分睡眠時間や学習時間がつくれた」など【外出自粛による安心安全な実習の実現】を利点として

挙げていた。

## 2. 代替的実習プログラムの課題

回答者数は 33 名（回収率 97.1%）であった。気になる課題は特になく満足な実習であったと回答した 2 名を除く 31 名の記述から抽出したコード数は 40 で、15 のサブカテゴリに分類され、さらに 7 つのカテゴリが生成された（表 4）。

学生は、代替的実習の課題として、健康教育を学生や教員対象に Zoom で実施したので【住民の反応が実感できず評価が困難】、家庭訪問のロールプレイや地区診断をしても【住民対象の実体験ができないことによる不全感】や、保健師の活動についても【保健師活動の実際や

表 4 代替的実習プログラムの課題

コード	サブカテゴリ	カテゴリ
健康教育の媒体がパワーポイントに限られる 健康教育は参加者の反応が分かりにくく、一方的形になった 健康教育は聴講者の反応が見えにくいのが残念だった	健康教育に対する住民の反応が見えない	住民の反応が実感できない
健康教育実施後の評価が難しかった 健康教育した対象者の反応が分からず評価が困難だった	健康教育の評価が困難	
ロールプレイをしても実際の対象者とは異なる 実演は住民に行く方が身につきやすいと思った 実際に地域住民と話す事ができない 保健師や住民に話を聞けなかった	対象者と関われないので技術を身につけにくい	実体験ができないことによる不全感
地区踏査が経験できなかったので方法があまり分からない 地域の健康課題や実習計画について深められなかった	地区踏査が経験できず方法を取得しにくい	
実際の場面を見てないので学びが抽象的になると感じた 保健師活動を実際に見れなかったので想像のままになっている 住民と保健師の関わりを見れず活動を想像でしか理解できなかった	実際に活動を見れないので抽象的な学びになる	保健師活動の実際を見れないことによる抽象的学び
現地に行けないので自分の学びに自信が持てない時があった 実際に保健師の活動や視点を試してみたかった 実際に保健師の活動を見学できず残念だった 活動場所の雰囲気や理解することが難しかった 保健所実習が未経験だったのでイメージが付きづらかった	活動の実際や雰囲気を理解しにくい	
グループワークで意見や反応が出にくかった オンラインでのグループワークは話が弾みにくい 大人数でのグループワークは話しづらく、少人数がいいと感じた 時間制限がある中で GW を終わらせるのが少しきつかった	グループワークを弾ませるためには少人数の方がよい	活発なグループワークにするための工夫の必要性
グループワークの時間を毎回つくってもらいたかった グループワークの時間がもっとあるとよい	グループワークは多い方がよい	
提出物を頻回にチェックして助言してほしい	提出物のチェックと助言が必要	個別の助言が得にくいことによる不安感
記録内容が本当にあるのか不安になった 記録に対する先生の助言があれば考えを深めることができた	記録に対する助言が必要	
画面を 90 分見ながらメモをとると疲れが溜まりやすい 同じ姿勢で ZOOM をしたので肩こりや首の痛み、疲労感があつた 画面を長時間注視するのは少ししんどかった 90 分を超える実習が 3 週間続くと疲労が蓄積し、しんどかった	長時間の画面注視による疲労蓄積	長時間のパソコン利用による疲労の蓄積
自分の部屋で受けるので授業と休憩のメリハリをつけるのが難しい	実習と休憩のメリハリをつけるのが難しい	
回線の不具合で聞こえづらく理解しながら進めていくのが難しかった Wi-Fi の調子が悪いと声が途切れて聞き取れなかった	Wi-Fi 環境により聞き取りづらくなる	
Wi-Fi の影響によって、グループワークに参加できない人がいて困った 電波が悪いとメンバーの声が聞こえなくなりグループワークが難しかった zoom でグループワークは声がかぶってしまい聞き取りづらかった	Wi-Fi の影響でグループワークが難しい	
実習が半日続くとパソコンの充電がなくなったり、熱くなった iPhone で参加すると通信状況が悪くなるが多く困った	通信機器のトラブルが発生し困った	通信環境のトラブルによる学習困難感

雰囲気を見られないことによる抽象的学び】になるという、住民や保健師等に関われないことによる学びの限界を挙げていた。実習方法については、グループワークを要望しつつ、オンラインにおける【活発なグループワークにするための工夫の必要性】を挙げ、提出物や記録に対しても【個別の助言が得にくいことによる不安感】を抱き教員のチェックや助言の必要性を挙げていた。また、パソコン等を用いることが必須の実習であることから「同じ姿勢でZoomをしたので肩こりや首の痛み、疲労感があった」、「自分の部屋で受けるので授業と休憩のメリハリをつけ難い」など【長時間のパソコン利用による疲労の蓄積】という健康課題や「Wi-Fiの調子が悪いと声が途切れて聞き取れなかった」など【通信環境のトラブルによる学習困難感】が挙げられた。

#### Ⅳ. 考 察

2020年度の公衆衛生看護学実習は、COVID-19感染拡大の影響を受け、保健所や市町保健センター等行政機関で行う従来の実習から15日間の代替的実習に変更して実施した。本研究では、代替的実習プログラムに対する学生の捉え方を調査した結果、代替的実習の良かった点や学べる点及び限界や課題が明らかになった。ここでは、代替的実習プログラムの有効性と課題を踏まえて今後の代替的実習のあり方について検討する。

##### 1. 代替的実習プログラムの有効性

学生は、代替的実習プログラムが有効な実習方法であると評価していた。その要因には、公衆衛生看護活動をイメージできる教材、能動的に学ぶ実習方法、教員の教育的配慮、安心安全な実習環境の調整が関係していたと考えられた。

教材研究のあり方について、岡崎らは教師の教材との向き合い方「教材との対話」が対象の深い学びにつながる<sup>12)</sup>、山下らは看護教員の看護実践を具現化することによって、学生の想像力の育成や臨床現場のイメージ化に貢献できる<sup>13)</sup>と述べている。本プログラムにおいても、保健師が潜在的課題を有する対象や家族支援が

必要な対象とどのように関係を形成し、支援の糸口を見出し、対象者と共にその人らしい地域生活の実現に向けて関わるのかという保健師の思考過程や支援技術の理解につながる事例にするための教材研究を重ねてきた。そして、作成した事例に対して具体的な説明を加えたことにより、学生は〈多様な事例の提示で保健師活動がイメージできた〉〈具体的事例を通して保健師の思考過程と支援技術を学べた〉など、保健師活動のイメージ化や支援技術の理解につなげることができており、教員の実践に基づく教材研究の重要性が確認できたといえる。

実習方法については、学内での家庭訪問実習のみならず、オンラインでの健康相談や集団健診の見学や体験により、【教員の実演と学生の模擬体験で臨場感ある学びにつながった】との感想が寄せられていた。今後、家庭訪問のような対象との相互作用の中で安全かつ正確に看護技術を提供するという高度な実践能力の修得を支援するためには、体験をより多く取り入れる工夫が重要であり、感染予防に留意した対面実習の可能性を探る必要性が示唆された。

実習は保健師活動の現場で行われる実践的な教育であり、学生は地域住民に接し、住民や多職種と協働することで多くのことを学び実践能力を養える機会である。したがって、教員は自らの保健師経験や実習指導で出会った事例を想起するなどして、可能な限り臨場感が得られるリアル体験型実習にしていく必要がある。教員が教育活動において臨床経験を価値づけ活用<sup>13)</sup>していくことや「オンラインでも実習に行って保健師が登場しているみたいだった」という感覚が得られていることから【実習さながらのプログラムと運営で臨場感ある実習体験】にすることが代替的実習では特に重要と考えられる。また、【グループワークとカンファレンスによる気づきの促進と学びの深化】や【個人ワークが思考と学びの深化、満足感の獲得】というグループワークと個人ワークを併用しながら実習を進めることの有効性が明らかになった。これは、全員が共通の体験をすることから、グループワークやカンファレンスによって、他の学生の様々な考えが聞け、気づきや学びを深める機会になったと思われる。一方、臨地実習では多くの体験ができるものの、その体験を深められ



ていない現状において、個人ワークの時間を設定したことでじっくりと事例に向き合い、学びを深められたことが満足感につながったと考えられた。

教員の教育的配慮については、オンラインという慣れない実習環境において、しかも学生間で適時の相談がしづらいこともあり、様々な不安を抱きながら<sup>8)</sup>、緊張した状態で実習に臨んでいる<sup>14)</sup>ことから、学生は【教員による日々のコメントや速やかで丁寧な対応が安心感】をもたらししていた。教員は画面越しの関わりではあるものの学生の不安や悩みに真摯に向き合い対応することや学生の緊張や不安となる要因をできるだけ取り除く<sup>15)</sup>など、より一層、個々の学生に寄り添った細やかな対応が求められている。

さらに、外出自粛により「感染予防や自身の体調管理ができた」、「実習施設への移動がなく疲労が少なかった」などの意見から、危機的状況下においては安心安全な実習環境を整えることの重要性が示唆された。

## 2. 代替的実習プログラムの限界・課題

代替的実習プログラムでは、可能な限り保健師活動がイメージできる教材や主体的実習を導く実習方法を取り入れたことによって、実習目標をほぼ到達させることができたと考える。ただし、代替的実習では、健康教育の実演や家庭訪問のロールプレイを実施しても【住民の反応が実感できない残念感】や住民対象に【体験ができないことによる不全感】が残ったり、【直に保健師活動を見れないことによる抽象的学び】になるなど、リアル体験の不足による実感を伴った具体的学びにつなげにくいことが明らかになった。また、【長時間のパソコン利用による疲労の蓄積】や〈Wi-Fi の影響でグループワークが難しい〉などの【通信環境のトラブルによる学習困難感】といった健康問題や学習への支障が挙げられた。

リアル体験の限界については、渡部らも臨地実習で得られるダイナミックで流動的な対象や家族の心理や葛藤などに触れること、さらに、保健師が実際に働く様子や現場の臨場感に触れることができないのは公衆衛生看護学内実習の限界である<sup>16)</sup>と述べている。また、本田らは、

保健師の現実の活動を見て、現場の暗黙知も含めた実感を通じた理解がないと技術・能力レベルの到達が難しく、現実的な実践能力を養成するためには「臨地での実習は必須である」<sup>10)</sup>と報告している。この実感を伴うリアル体験実習ができないことによって、体験に対する指導者からの具体的指導や体験と省察を基軸とした学習機会が少なく、保健師の役割や機能を実感しにくいことが代替的実習の限界であり重要な課題と言える。なお、今回は教員が保健師や住民、関係職種になりきるよう努めたが、公衆衛生看護の特色である地域住民と協働して活動する実践能力<sup>17)</sup>を養うためには、今後は地域住民や保健師などのゲストスピーカーの参加を得た実習プログラムにしていく必要性が示唆された。と同時に、臨地実習の意義の大きさから、短期間であっても保健所等での臨地実習の実現を検討する必要性が明らかになった。

同時双方向型遠隔システムの長時間利用による、肩こりや首の痛み、疲労感といった症状の出現という課題が明らかになった。今回の実習時間は、厚生労働省が定める「情報機器作業における労働衛生管理のためのガイドライン」<sup>18)</sup>が示す、作業時間継続時間や作業休止時間の設定が不十分であったと考えられる。今後は、産業保健指導の学習とも関連することを意識して1時間に10分程度の作業休止時間を意図的に設け、VDT 症候群の予防体操を組み入れるなどの対策を行う必要がある。

## V. 結 語

学生は、A 大学が実施した代替的実習プログラムに対して、保健師活動をイメージできるリアルな教材、臨場感のある実習方法、教員の教育的配慮、安全安心な実習環境等によって、学びの深化や満足感、安心感が得られる有効な実習方法であると評価していた。ただし、住民の反応を実感できないことや保健師の活動を直接学べないといった、リアル体験の限界とパソコン機器の長時間利用による疲労の蓄積や通信環境のトラブルによる学習困難感といった健康問題や学習への支障が挙げられた。

今後は、より臨場感を追求した代替的実習プログラムに発展させていくと同時に、学生が保

健師活動を実感として理解できる実習環境を提供するために、短期間であっても保健所等での臨地実習の実現について検討する必要性が明らかになった。なお、今回実施した代替の実習プログラムの内、学生の学びを深めることに有効であった教育内容や方法については緊急事態に限定せずに応用することの有用性が示唆された。

#### 利益相反

本研究において開示すべき利益相反状態はない。

#### 文 献

- 1) 文部科学省・厚生労働省(2020)新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設等の対応について(通知)  
<https://www.mhlw.go.jp/content/000605026.pdf>(検索日2020年7月6日)
- 2) 厚生労働省医政局看護課長通知(2008)。「保健師教育の技術項目の卒業時の到達度」(平成20年9月19日付医政看発09100010号)。
- 3) 文部科学省高等教育局医学教育課(2020)新型コロナウイルス感染症の発生に伴う看護師等養成所における臨地実習の取扱い等について(周知)(事務連絡令和2年6月23日付)
- 4) 渡邊路子, 田辺生子, 伊豆麻子, 他. ケースメソッドを取り入れた公衆衛生看護技術演習の効果と課題. 新潟青陵学会誌 2017; 9(1): 53-62.
- 5) 臺有桂, 西村多寿子, 国井由生子, 他. 地域看護学教育におけるゲーミング・シミュレーションを活用した健康危機管理演習の試み. 横浜看護学雑誌 2009; 2(1), 25-32.
- 6) 記村聡子, 梅垣弘子, 廣瀬忍. 新型コロナウイルス感染症流行下における老年看護学実習の検討「地域で暮らす高齢者への看護」を学ぶ学内代替の実習プログラム. 四條畷学園大学看護ジャーナル 2020; 23-29.
- 7) 岡田麻里, 片山陽子, 諏訪亜希子. 対話型オンライン学修を用いた在宅看護学実習の取り組みと評価ーCOVID-19感染予防策を契機に実装した教育システム発展のためにー. 香川県立保健医療大学雑誌 2021; 12: 57-65.
- 8) 小布施未挂, 縄秀志, 鈴木彩加, 他. COVID-19のパンデミックにおける統合科目(基礎看護学)の取り組み. 聖路加国際大学紀要 2021; 17; 171-176.
- 9) 中村昌子, 櫻井美奈, 山住康恵, 他. オンデマンド看護課程展開とハイブリッド基礎看護学実習のための看護教育方法の提案. 共立女子大学看護学雑誌. 2021; 8; 45-53.
- 10) 本田光, 近藤圭子, 田仲里江, 他. 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大に伴い実施された保健師教育における代替の実習の実践報告. 保健師教育 2021; 5(1): 75-85.
- 11) 実践力向上を目指した公衆衛生看護学実習の展開. 保健師教育におけるミニマム・リクワイアメンツ全国保健師教育機関協議会版(2014)
- 12) 岡崎裕, 深澤英雄. 若手教員における「教材研究」のあり方「教材との対話」から深い学びへ. 和歌山大学教職大学院紀要学校教育実践研究. 2018; 3: 9-14.
- 13) 山下智美, 大池美也子, 能登裕子, 他. 看護専門学校の教育活動における看護教員の臨床経験の意味. 日本看護学教育学会誌 2021; 31(1): 111-122.
- 14) 藤本裕二, 山川裕子, 中島富有子, 他. 看護学生が臨地実習において教員および看護師に求める資質と能力. 保健学研究 2010; 23(1): 9-16.
- 15) 高岡寿江, 石堂たまき, 藪下八重. 新型コロナウイルス感染拡大下で看護学実習に臨む学生の思い. 佛教大学保健医療技術学部論集 2021; 15: 55-68.
- 16) 渡部幸子, 大澤豊子, 谷口友子. COVID-19禍における保健師学生の模擬健康教育の実践報告ー市町村実習を臨地実習から学内実習に変更してー. 了徳寺大学紀要 2020; 15: 49-59.
- 17) 岸恵美子. 保健師基礎教育の検討状況とこれからの本協議会の活動について. 保健師教育 2020; 4(1): 2-9.
- 18) 厚生労働省労働基準局長. 情報機器作業における労働衛生管理のためのガイドラインについて  
<https://www.mhlw.go.jp/content/000539604.pdf>(検索日2021年8月17日)